



腹痛は、誰でも経験するありふれた症状です。特に下腹部痛は男性よりも圧倒的に女性に多く、これは女性の生殖器官(卵巣、卵管、子宮など)が下腹部にあり、下腹部痛を伴う病気が起こりやすいからです。放置しておいて自然に治るものもあれば、緊急の手術が必要となる重症な原因もあります。今回は突然始まる下腹部痛のうち、頻度の多い病気を考えてみましょう。

突然、耐え難いような激痛を来す病気として、子宮外妊娠の破裂と卵巣腫瘍の捻転があります。どちらも緊急手術が必要となります。子宮外妊娠とは、本来妊娠する子宮内以外の部位に妊娠してしまうことで、卵管や腹腔内臓器の表面です。このような場所では胎児は正常に成長できな

女性の下腹部痛

婦人科医



今井篤志氏

いので、いずれ破裂や流産をして腹腔内に多量の出血が起きます。この時に激しい痛み

子宮や卵巣多い原因

と同時に、急激な貧血状態に陥ります。早急に、この出血を止めるために、妊娠部位を探して手術で切除する必要があります。

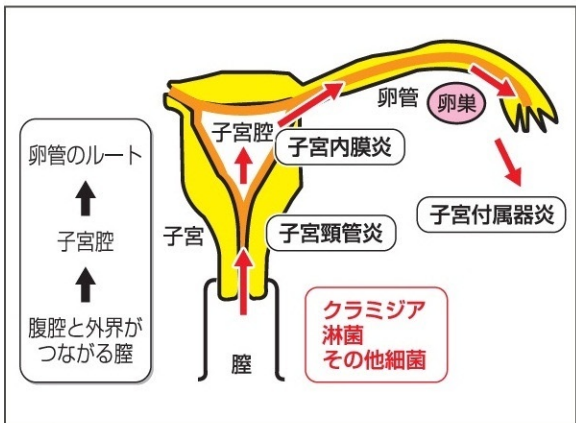
卵巣は沈黙の臓器と呼ばれるくらい、損傷や腫瘍が生じても症状に現れにくく、自覚症状が出る頃には非常に悪化しています(2015年3月23日付本欄参照)。卵巣は靱帯や卵管にぶら下がった状態です。腫瘍ができて5、7センチほどの大きさになると支えている靱帯がねじれるこ

とがあります。萎捻転と言います。思春期では卵巣が発育を始めるので、正常な卵巣でも萎捻転を起こすことがあります。

捻転すると、ねじれた先に血液が流れなくなり、突然激痛が襲い、卵巣や腫瘍の壊死が生じます。壊死が起る前にねじれを戻す必要があります。

す。壊死した場合には、摘出する必要があります。ねじれてから壊死するまでに6、12時間と言われているので、緊急があります。

耐え難いような激痛の場合は医療機関に受診しますが、我慢しようと思えばできてしまう痛みが要注意です。そのような下腹部痛に「子宮内



炎」や「子宮付属器炎(卵管炎・卵巣炎)」といった炎症があります。膣→子宮腔→卵管は腹腔と体外がつながっているため、膣や子宮腔に細菌が侵入しても、免疫や月経によって排除されます。しかし、不潔な行為や医療行為で頑固な細菌に感染することがあります。この場合の細菌

突然の激痛は手術が必要

は性行為で感染するクラミジアや淋菌、そして人体に常に存在する大腸菌やブドウ球菌がほとんどです。子宮内に侵入したこれらの細菌は、卵管を通じて卵巣や腹腔内に炎症を引き起こします。症状として、急な下腹部痛、発熱、膿のようなおりものが現れます。抗生剤で治療しますが、慢性化すると骨盤腹膜炎となり、重篤になります。

膀胱炎も急な下腹部痛を生じます。この場合には、排尿時の不快感や残尿感を伴います。女性は男性よりも尿道が短いため、細菌に感染しやすいです。膀胱炎は女性特有の病気と言ってもいいくらいです。なるべくトイレを我慢せず、細菌の感染を防ぐことが大事です。このほか、虫垂炎など腸の病気も下腹部痛を来します。今回紹介した病気以外にも、頻度が低くても重篤な病気があります。気になったら、医療機関で相談してください。(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)